

NEWS (PRESS) RELEASE

令和2年4月24日

産業振興部水産課

タイトル

4月28日母貝養殖事業化実証試験を開始します。

概

要

8 働きがいも
経済成長も



令和元年7月頃から、全国的に真珠養殖に使用するアコヤガイの大量へい死が発生し、稚貝のへい死率が7割に達するなど、大きな被害となりました。

三重県で養殖しているアコヤガイの主産地である愛媛県でも同じようなへい死が発生しており、今後真珠養殖業を継続する上で、どのようにアコヤガイ（母貝）を確保していくかが大きな問題となっています。



志摩市では、へい死の発生を確認後、真珠組合や三重県、南伊勢町と連携して速やかにへい死状況の確認を行うとともに、三重県や国に早急にへい死原因の究明を求めてきました。また、被害を受けた漁業者が運転資金などを調達しやすいように、三重県と連携して融資に伴う利子補給や保証料の助成などを行ってきました。

さらに、令和2年度以降も引き続きアコヤガイのへい死が発生した場合に備え、真珠養殖業者が母貝を育成するためのアコヤガイの稚貝購入に補助金を交付するとともに、新たな母貝の生産・供給体制の構築を先導して真珠養殖の継続を図ることが必要と判断して、三重県内の海域で三重県や南伊勢町、三重外湾漁協の協力を得て母貝生産の事業化に向けた実証試験を行うこととしました。令和元年度から養殖施設等の整備や試験に参加する漁業者の公募を行うなどの準備を進め、令和2年3月30日に母貝の育成に取り組む12名の漁業者の皆さんによる「三重真珠養殖研究会」が設立されました。





その後、母貝育成の作業計画などについて調整を行い、4月28日に三重県がへい死対策として緊急生産を行った稚貝（20万個）を試験海域に搬入して、試験が開始されることになりました。

今後、南伊勢町神前浦に設置した養殖筏を使用して母貝の育成に取り組み、成長や歩留り、品質などを確認して今後三重県内での母貝生産が事業として成立するかどうかを検証していきます。

アコヤガイ稚貝受け取り作業

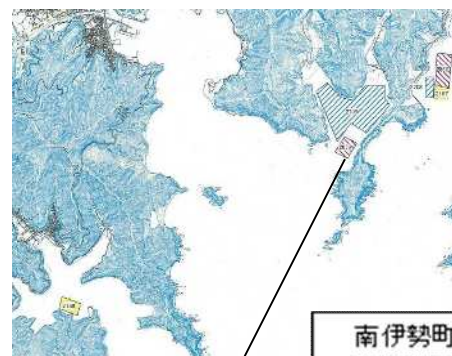
場所：志摩市浜島町浜島3564-1

三重県栽培漁業センター

日時：令和2年4月28日（火）午前9時

内容：三重県栽培漁業センターで生産されたアコヤガイの稚貝20万個を漁業者が受け取り、発泡スチロールの箱に入れて南伊勢町神前浦まで車で運びます。

その後、稚貝を作業船に移し替えて養殖海域まで運び、かごに入れて海中に垂下する作業を行います。



試験予定海域

南伊勢町
神前地区

三重県栽培漁業センターでの取材を希望される方は、事前に下記担当までご連絡ください。また、マスクの着用等、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止にご協力をお願いします。

お問合せ先

志摩市産業振興部水産課

TEL 0599-44-0289 FAX 0599-44-5262

e-mail suisan@city.shima.lg.jp